## 【岐阜女子大学】メタデータ記述用紙

	メタデータ項目	メタデータ記述欄
1	ID	
2	表題名	沖縄のアメリカ世の名残
3	資料名	730 記念碑
4	内容分類	郷土・歴史
5	索引語	沖縄戦、復帰 50 年、アメリカ世、730 交差点、730 記念碑、石垣島
6	説明	沖縄本土復帰の6年後である1978年(昭和53年)の7月30日、沖縄の交通方法の変更により、米国施政権下から33年続いた米国式の「車両右側走行」が「左側走行」に切り替えられた。この変更は、実施日にちなんで「730(ななさんまる)」とよばれ、記念碑の設置されている交差点は730交差点と標記されている。これは本土復帰にともなう措置の一環として、復帰後、沖縄県と本土間の人的交流が増加することが予想され、日本が加盟している道路交通に関する条約に定められた「同一国同一交通方法の原則」を遵守する等の理由から実施された。(1975年に沖縄国際海洋博覧会が開催され、実際に復帰後から徐々に沖縄県入域観光客数は増加していた。) 沖縄県は住民生活の負担と混乱を防ぐため、変更前日29日午後10時から翌日6時までのわずか8時間、全県において車両通行止めや駐車禁止等の規制を行い、道路標識や道路標示、信号機等の切り替え作業を一斉に行った。また、前年度からそれらの準備のほかに、バス停の建替えやバスやタクシー車両の乗降口の変更、施設整備など、巨額の資金が投入された。これらは沖縄経済を潤したものの、変化した車両の流れによる営業損失や、交通事故・交通渋滞による物流の悪化などの被害が大きく、給油所や店舗などの廃業や転業に補償がなかったため、一部で不満もあったようだ。 石垣市では、同年9月歴史的な事業を記念し、730記念碑を建立した。その後、2008年7月30日交通安全を祈念して一対の獅子(シーサー)を置いて碑の周辺を公園として整備し、「730シィーシィーパーク」とした。(「シィーシィー」とは琉球語の八重山方言でシーサーをさす。)
7	形式	静止画 (jpg)
8	氏名	撮影者:*****
9	時代・年	撮影日:2020/7/3
10	地域・場所	沖縄県石垣市美崎町
11	利用条件	表示 4.0 国際 (CC BY 4.0)で提供
1 2	関連資料	
13	権利者	岐阜女子大学
14	協力者	なし
15	登録日	2022/11/11
16	登録者	*****

17	ファクトデータ	circd091a-0003. jpg
18	サムネイル	
19	公開の可否	公開可
20	*特色	■戦後、沖縄はアメリカ統治下にあり、現在の米軍基地内と同様に"カリフォルニア州"であったため、本土への行き来にはパスポートが必要であった。本土復帰により他都道府県への行き来にパスポートが不要になった。 ■なぜ、石垣市に「730 記念碑」を設置したのかについて、沖縄県で発行されている地方紙「沖縄タイムス」は次のように記事にしている。  一 (略) それにしても、なぜ石垣市で記念碑を制作? こう聞くと仲程さんは「当時の石垣にはまだまだ車は少なくて、運転に慣れていない人も多かった。交通方法の変更後も事故が起きないことを祈願して建てられたのでは」と推測した。(略)  *仲程さんは石垣市教育委員会市史編集課の職員。記事の冒頭に記載あり。 (沖縄タイムスプラス,「730 交差点」が石垣島にあるワケは? きっかけは警察官がデザインした記念碑、https://www.okinawatimes.co.jp/articles/-/936545,2022年4月2日09:51,参照2022/11/13.)
2 1	*活用支援	
2 2	*利用分野	教育、生涯学習、地域学習
2 3	*改善結果	
2 4	*処理プロセス	
2 5	機関外リンク情報	
26	目標	
2 7	紹介	